

ウォーキングラリー 大東の風景を訪ねて

4月24日

起点 住道駅前 → 住道北小学校 → 氷野ポンプ場 → 会所橋 →
住道北商店街 → 新町郵便局前 → ゴール 大東市立歴史民俗資料館



住道北小学校の校門前です。上の写真は昭和19年ごろで、目の前にすぐ寝屋川の流れが見えます。下の写真は現在の同じ場所のものです

企画展「大東の風景」に関連した催しとして、4月24日（日）住道駅周辺ウォーキングラリーが行われました。上に表示の各ポイントで、お待ちしている市民学芸員が、当時の写真と現風景を比較しながら説明し、町の風景の移り変わりを体感して頂こうというものでした。

ゴールではすべてのポイントを通過した方へ景品をお渡ししての2時間でした。



新町郵便局前で説明を聞く参加者。サーティーホール周辺一帯広い範囲が「カネボウ」でした

今後も機会を作ってください おいでになつた方の感想

☆孫と一緒に参加しました。
カネボウが駅の近くにあんな広くあつたとは知りませんでした。今後も気軽に大東を知る機会を作ってください。

前野さん（諸福3丁目）

☆二コル（愛犬）も一緒に参加し、今まで知らなかつた風景に触れ楽しいひと時でした。

松井さん（川中新町在住）

・ありがとうございます。
これからもよろしくお願ひします。

うな活動を続けていきたいと思つてます。

・ありがとうございます。
これからもよろしくお願ひします。

日本の赤字国債は深刻だと嘆く経済学部出身の上野さん。飾らないお人柄で気さくな表情の瞳の奥に、凜とした日本人としての誇りをお持ちの方だとお見受けしました。

（聞き手 大西京子）

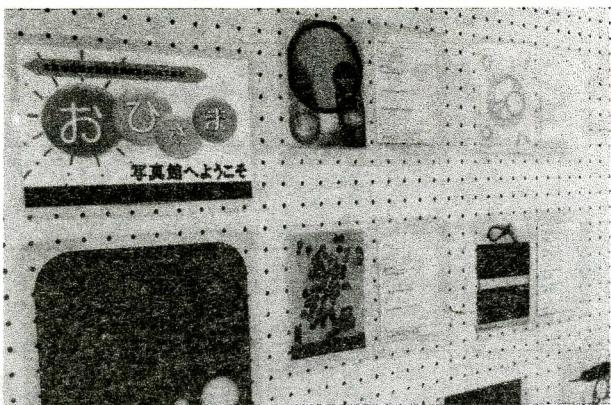
います。専ら盆踊りなどの集金がメインですが。こんな名刺を見せて、怪しまれないよう気を付けています。（笑）

・氷野老人クラブ会長のほかにどんなお世話をしていますか。（とお聞きする）名刺をまた数葉見せてくださいました）

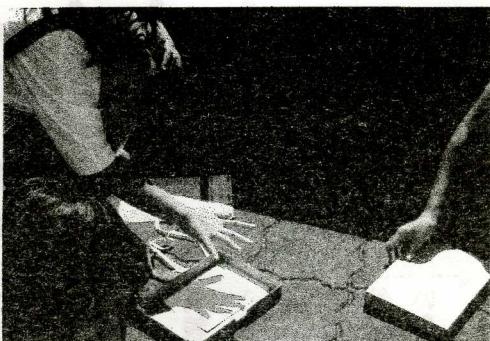
最後に市民学芸員活動についてお聞きしたいのですが？退職して以来、時間に少しうどりができる、歴史にもいろいろと興味が持てるようになってきました。地域に貢献できるような活動を続けていきたいと思つてます。

（お聞きした）

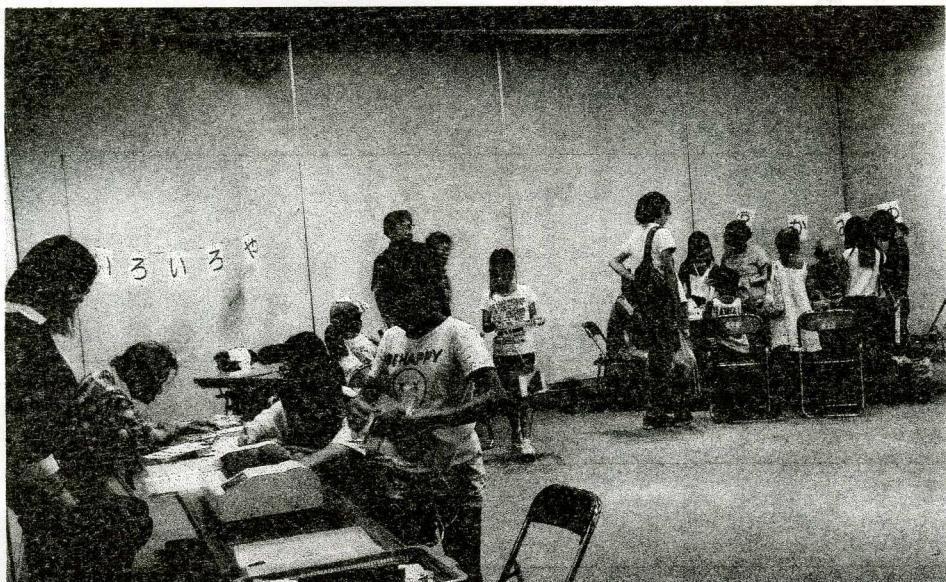
表紙1頁下段よりつづけ



市民の皆さん方の日光写真は7月30日から8月28日まで、歴史民俗資料館に展示させていただきました



感光紙の上で、おひさまに手をかざして5秒、薄青色の映像が紙に焼き付けられます。



紙細工と日光写真 7月10日と17日、大勢のご家族連れ、子どもさんが来館され、昔懐かしい、子どもさんにとってはじめての遊びを楽しんでいただきました。市民学芸員も一緒に楽しんだのは勿論です。



こ家族そろって真剣に
紙細工に挑戦

「紙細工に挑戦」を主として指導していた浅野純郎さん。色紙を小さく折つて、重ねて、つないで、みるみるうちに精巧な紙細工、野崎まいりの舟（上の写真）が出来上がり。



わたしのが小学生だった頃

嬉しかったこと 楽しかったこと 淋しかったこと
伝えたかったこと 他人には言えなかつたこと

昭和二十年三月の大阪
大空襲から追われ、母親
の郷里、松本へ逃れての
入学でした。物資欠乏の
極みの中での小学校生活
両親特製の下駄と服、ラ
ンドセルは、ボール紙製
で、雨の日は無論傘がな
いので濡れての登校、当
然直ぐ壊れ、唯一の嬉し
いものを失いました。

球がなく、急にわからぬで暗くなれば黒板は見えない等、このような教育環境の中で、生来怠け者で勉強嫌いの私には、友人まかせで好都合で良かつ

あるときは落下した上級生とあわてての逃走。最近までＮＨＫの朝ドラマ「おひさま」の舞台となつた、北アルプス連峰の大天井岳、常念岳を望みながらの安曇野リゾート園散歩

策（一個くらいは
ました）などと、
工夫し、道草で自
かみ、貧しいなが
しい一年生でした。

りて午前と午後の二部授業だとか、企業の社員寮を借りての授業でした。先生たちも随分苦労されたと思います。

最も楽しかったのはお城の南側の元陸軍第46部隊の兵舎跡での授業で

終戦直後の ピカピカの一年生

貧しいながら自然を友に

氏原 稔夫（緑ヶ丘在住）

給食は、各自が持ち寄った食材で、週一回程度

値の判断ができない特異な食べ物」。教科書は国語だけしかなく先輩のお古で「墨塗り教科書」を数人で一冊を囲み学習、授業が終わつたら回収、

下校

私は昭和二十年四月、兵庫県姫路市の船場国民学校初等科に入学しました。上級生に引率されて集団登下校、学校の門の前には上級生

あり、南にある山の稜線の向こう側が火災で真っ赤に染まる様子を祖父の家の縁側から見たのを憶えていきます。

前号では、市民学芸員にとつて懐かしい品々について語つてもらいましたが、今号は小学生時代の思い出です。年齢層から見て昭和二十年の終戦前後から昭和四十年ごろの間のお話です。

偶然ですが、何らかのかたちで学校を変わったお話を多くなりました。「転校」は子どもにとつて意外に大変な事件なのでしょう。

たが、当然学力が付くはずがなく、今日大いに反省しているところです。



姫路市の空襲で 学校・校舎を転々と

為則泰明（南新田在住）

な社殿のよつたなものがあつて、その前に整列して靈敬礼をしてから教室に向かいます。

嫌だった♪人生の並木道

中西 昭治（諸福在住）



小学生3年生の頃の兄（中西）と妹

「警戒警報発令中ですよ。電気が外に漏れていますよ！」

見えました。その時玄関の戸をたたく音。昭和十九年、既に戦争末期に入ろうとなっていました。

いの吸気を終えたところでした。その時玄関の戸を開いた。祖母があわてて電燈の周りを黒いカバーで覆うと、ぼんやりとした円い白い光が、父の顔を照らします。私と妹はただ黙って、父の枕元に並んで座っているだけでした。

私が国民学校六年生の時のことです。七年前の母に続いて、父も急死し、私と妹の生活は一変しました。

深夜、その日たまたま泊まってくれていた祖母に促されて父の寝ている部屋に行くと、喉にひつかかった、部屋中に響くような呼吸をしていた父が、最後に深く、長い長い

見回りの隣組の人でした。祖母があわてて電燈の周りを黒いカバーで覆うと、ぼんやりとした円い白い光が、父の顔を照らします。私と妹はただ黙って、父の枕元に並んで座っているだけでした。

夜が明けると伯父、叔父たちがやってきて、すべて事を運んでくれました。医師を呼び死亡診断書を書いてもらう、市役所へ行って火葬手続、葬儀一切、隣組への挨拶、私たち二人の、米穀通帳

「私のふるさとは、北海道長万部。花嫁衣裳で二等列車に乗り、隣の町へ「オシャマンベ」と読む。アイヌ語で嫁いでいったのである。

の周りを黒いカバーで覆うと、ぼんやりとした円い白い光が、父の顔を照らします。私と妹はただ黙って、父の枕元に並んで座っているだけでした。

「青海の山脈」という歌を存知ながら、歌そのままの小学校生活だった。

「私のふるさとは、北海道長万部。花嫁衣裳で二等列車に乗り、隣の町へ「オシャマンベ」と読む。アイヌ語で嫁いでいったのである。

今でも憶えている。「みんな元氣ですね」と笑いながら、その笑顔の中になにか物悲しいものがただよっていた。

その中で思い出が一つある。憧れていた先生がお嫁に行つたことである。ろうか。

中村義之（緑ヶ丘在住）

歌を存知ながら、歌そのままの小学校生活だった。

「みんな元氣ですね」と笑いながら、その笑顔の中になにか物悲しいものがただよっていた。

その数年後、繁森君は若くして病氣で亡くなりました。ちょうど同じころ、前の学校、岡山市の石井小学校が全焼してしまったのを、何かの時に知り、流行っていたディック・ミネの「人生の並木道」もいつのまにか、あまり聞かなくていいようになりました。

頭の上を大波が通るのを感じるだけでした。

叔父の一人に引き取られ、吉備高原の西端に悲しかった。雪の降る寒い日だった。

その中で思い出が一つある。憧れていた先生がお嫁に行つたことである。ろうか。

「みんな元氣ですね」と笑いながら、その笑顔の中になにか物悲しいものがただよっていた。

その数年後、繁森君は若くして病氣で亡くなりました。ちょうど同じころ、前の学校、岡山市の石井小学校が全焼してしまったのを、何かの時に知り、流行っていたディック・ミネの「人生の並木道」もいつのまにか、あまり聞かなくていいようになりました。

れ、戦争末期ゆえの、学業をさておいての薪運びなどの「勤労奉仕」や「農地開墾作業」。自給自足の農村生活に馴れた

い私にとって、級友たちともなかなか打ち解けられそうもない毎日でした。

そんなときに果たしたのが、前の学校への手紙

でした。急な転校で、別

大阪に住む叔父からの電報で急ぎよ呼び寄せられ受けたのが、国鉄の車両工場の技能者養成所の試験でした。それからは、

周囲はみんな賢そうで大阪弁、しかも話し声が小さいので聞き取りにくく、私の無口さ加減がずっと続きます。

「先生だ友達だといつても、どうせ世の中その程度なんだ」と悟っていた

「立くな妹よ 姉よ泣くな 泣けば幼い一人して 故郷を捨てた 甲斐がない

かのようないい日々を送っていた私を戒めてくれたのか

が、親しくしていた中学同級生の繁森要君から来

の移動の手続き、転居手続き、転校手続き、家財道具の処分。そして何よりも私たち二人を誰が引

き取るかです。親戚の方たちも大変だったと思い

ますが、私はただ黙って、奴

の手紙でした。大慌てで詫びの返事を書いたのはもちろんです。

その数年後、繁森君は若くして病氣で亡くなり

ました。ちょうど同じころ、前の学校、岡山市の石井小学校が全焼してしまったのを、何かの時に知り、流行っていたディック・ミネの「人生の並木道」もいつのまにか、あまり聞かなくていいようになりました。

「立くな妹よ 姐よ泣くな 泣けば幼い一人して 故郷を捨てた 甲斐がない

かのようないい日々を送っていた私を戒めてくれたのか

が、親しくしていた中学同級生の繁森要君から来

の手紙に出さず何も返事を出さず何

かの時が必要でした。

次第に記憶の封印が解け、あの頃の事を懐かしく思い、こうして語れるようになるには、三十年ほどの時が必要でした。

6年生のお姉さん お世話になりました 空襲を避けての半年間

高見庸子（太子田在住）

規の「配給」でしか滅多に口にできない貴重品だったのだ。

母姉妹の見送りの中、

涙もなく出発したようだ。

毎日の事でほとんど諳じてしまった。食事は献立など忘れているが、米飯であった。

大阪の食糧事情を思えば有難いことだった。大豆や南瓜の混ぜ物が多く、一番困ったのはよもぎ葉

筒に入った炒り豆があった。食べ物は全て没収され、後でみんなと分けるのである。偏食の為か通事は軟らかくなりすぎ、別棟の便所はハエとアブ。悪臭で、使用には強い危機感を覚え、勇気が必要だつた。

上級生の話す米兵の進駐の不安を耳にし、「そんなんだ」と実感する。

その二ヶ月後の十月に無事帰阪となる。省線京橋駅のプラットホームから見た灰色一色の広く続く焼野原の光景は深く脳裏に刻まれている。

別棟の便所はハエとアブ。悪臭で、使用には強い危機感を覚え、勇気が必要だつた。

住職さん

「敗戦」を聞かされ涙が自然に・・

私の家族はというと、父はニューギニア戦にやられていたが、一年後、正に九死に一生を得て無事帰還してくれた。大阪の家族も傷つくことなく空襲からのがれ、私も寺の上空に飛行音を耳にしながらも怪我や病気もせず無事帰宅できたことは幸である。

終戦の翌日、本堂に集められ、住職さんより

「日本は敗戦し戦争の終了」を告げられた。深く意味を解せずとも何かを感じたのか、自然と涙が流れたことを記憶している。それを見た同級生になじられ笑われたことも。

私の子どもの頃は、今のような人権や自由がない時代であつたことをここに伝えたい。

お寺の本堂で 60人が寝食と授業

本堂をとりまく廊下の

棚に、衣類や身のまわりの品、教科書等を入れた

柳行李一個が各自の持ち物であった。まず朝一番

に寺の内外の清掃の後、

本堂での住職（桜井和尚）

さんと共に経を唱える。

母に見送られ石川県へ出発当日、学校の講堂に各町会別で整列した。

大きなコッペパンを二個配られた事はよほど嬉しいものだったのであろう、今までの経験を惜しがつたのである。當時は正

昭和二十年の春、大阪府北河内郡守口町滝井国民学校初等科・当時三年生の私は家族と別れ、石川県のお寺で、半年間の学童集団疎開を経験した。

以下、かすかな記憶をもとに、参考にした資料

の助けを借りて、半年間のことに対する。

昭和二十年の春、大阪府北河内郡守口町滝井国民学校初等科・当時三年生の私は家族と別れ、石川県のお寺で、半年間の学童集団疎開を経験した。

昭和二十年の春、大阪府北河内郡守口町滝井国民学校初等科・当時三年生の私は家族と別れ、石川県のお寺で、半年間の学童集団疎開を経験した。

以下、かすかな記憶をもとに、参考にした資料

の助けを借りて、半年間のことに対する。

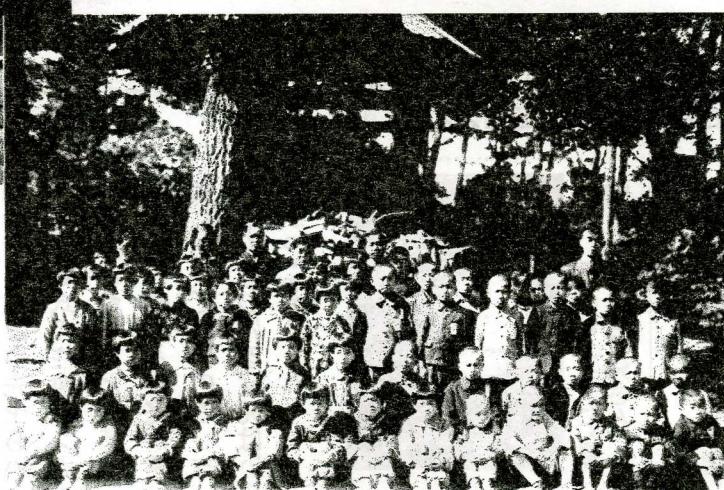
昭和二十年の春、大阪府北河内郡守口町滝井国民学校初等科・当時三年生の私は家族と別れ、石川県のお寺で、半年間の学童集団疎開を経験した。

以下、かすかな記憶をもとに、参考にした資料

の助けを借りて、半年間のことに対する。



写真上は、石川県中能登町の、現在の明泉寺。
写真下は半年間、寝食を共にした高見さんたちの
「記念写真」
背景の鐘つき堂は、上の写真では右側の建物。



わたしが小学生だったころ
海山いたずら先生友だち別れ疎開空襲

で爆撃するようになり、また機動部隊が日本近海まで押し寄せてきました。それまでの警戒警報発令では間に合わず、いきなり空襲警報で、登下校が危険になり、各地域で集

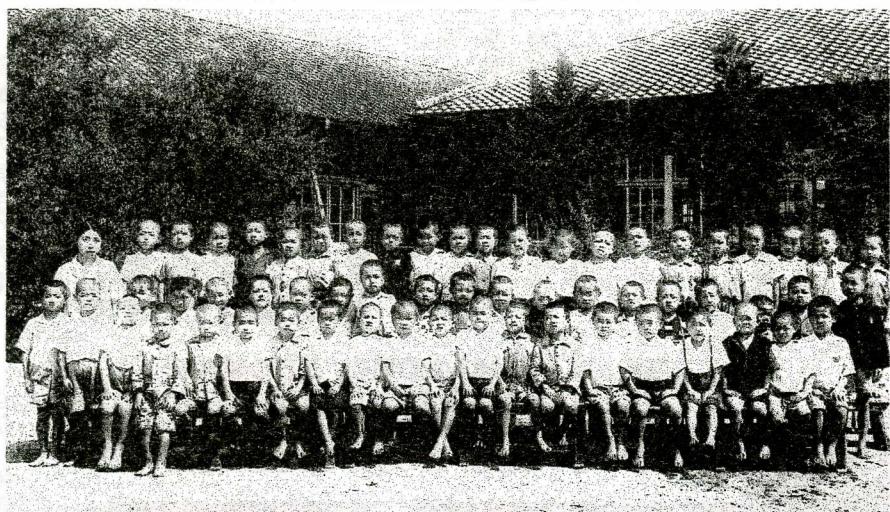
には女性の先生が二人来られました。勉強などで起きる環境ではなく、体操と「海ゆかば」など軍歌の練習だったと記憶して

スは割れたまま、コンクリートだけの廊下に机を並べての授業でした。靴も配給制で貴重品だったんで、学校では冬以外は

の冬あたりから石炭ストーブが教室に入つて喜んだ記憶があります。

た。手作りの釣り竿を持つてよく出かけたものだ。手先の器用な二番目の兄が、リールや浮きも作つた。獲物はたいがいハゼ

くと、たいがいいつもの
メンバーがそろっていた。



最前列右から5人目が上野繁さん。南郷小学校3年生、上野さんのクラス。昭和22年です。



左が、子どもの頃の上繁さん。右はお兄さん。

て、軍隊式の往復ビンタを喰わされることもありました。学校と家庭が信頼しあっていたので、クレームをつける父兄はいなかつたようです。

魚釣り

「夕焼け」

たが、それなりに金をねだる。
と思う。一度出かけると
適当にふざけあつたり釣
果を競つたりしながら夕
暮れ時まで遊んだ。そし
て獲物を手にして帰るの
だ。「夕焼け小焼け」の

海ゆかば 往復ピンタと脱脂ミルク

南郷小学校での戦中戦後

上野 繁 (氷野在住)

合することになりました。水野地区では本念寺に集まりました。若い男の先生の多くは招集され戦場へ行つてゐるので、お寺

八月に戦争が終わり、
九月に登校すると、教室
は軍需物資の倉庫代わり
のままでした。窓のガラ

裸足でした。三年生になって、やつと軍需物資が搬出されましたが、教室の中央は大きく窪んでいました。脱

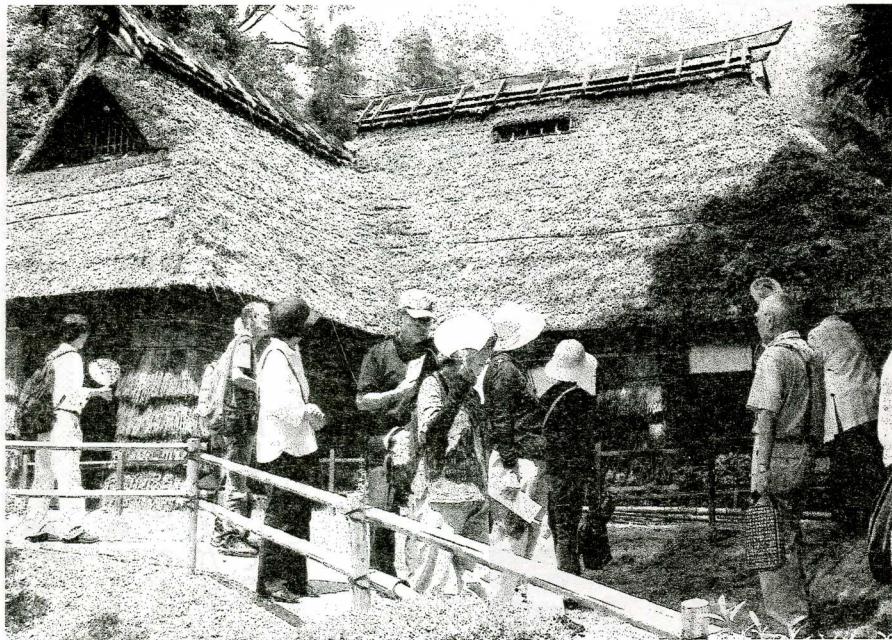
魚釣り 水遊び
山菜採り
「夕焼け小焼け」が
似合った時代

水永八十生（平野屋在住）

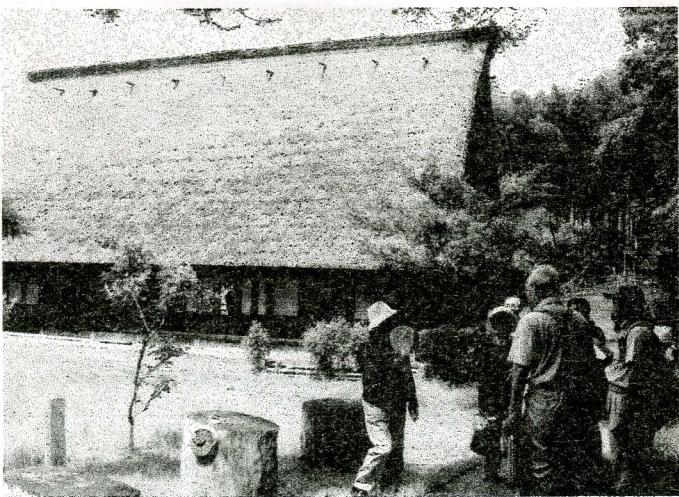
やフナだったが、時々ウ
ニギニスが切れ。毎

次頁の下闋に

来年度の活動に向け只今研修中



日本民家集落博物館・信濃秋山の民家（長野県）
の前で説明を聞く市民学芸員



飛騨白川の民家 合掌造りの家の前で、その成り立ちと、大家族の生活の様子などをお聞きしました。

代だつた。

今思えば遊びと実益が半々で生活にもむすびついた時

市民学芸員が訪問した施設

日本民家集落博物館

大阪市立住まいのミュージアム

大阪くらしの今昔館

堺市博物館

大阪市立東洋陶磁美術館

高槻市立今城塚古代歴史館



日本民家集落博物館 脳部練地

(8月26日)

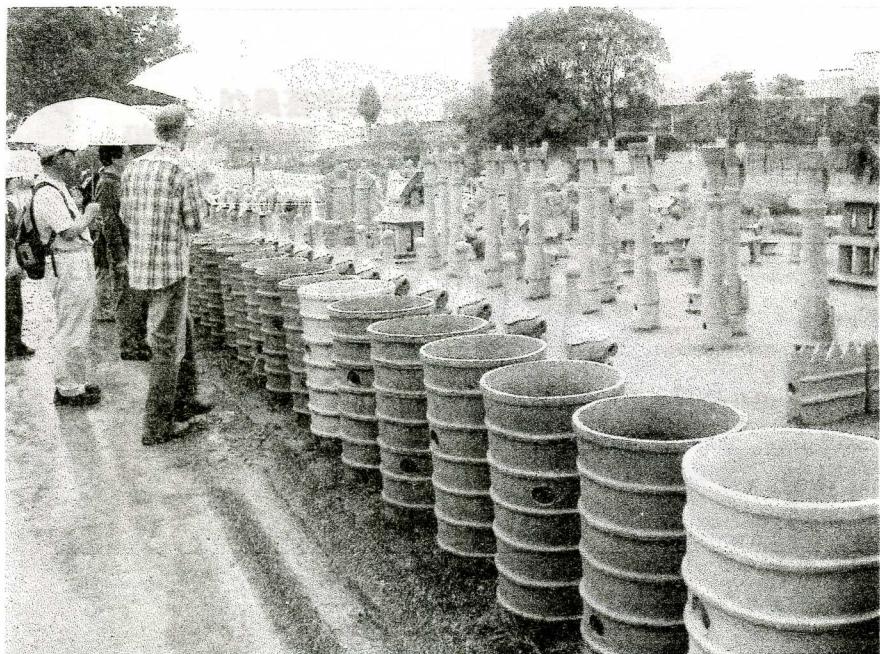
大阪市立住まいのミュージアムで、案内いただいたボランティアの方を囲んで、その経験をお聞きし、今後のアドバイスをしていただきました。

磯と砂が揃った絶好の浜。波乗りと着場の潜りをした。そして貝や海草を探って帰る。お盆までは、晴れていれば行つた。お盆を過ぎると波が高くなりクラゲもやつてくるので子どもなりに危険を感じて、海からは自然と足が遠のいた。

釣ってきた小魚、たまのウナギや、海で採ってきた貝はおかずに添えられ、それがなりに家族に歓ばれた。

食べものをくるむのに皮や木の葉などを使っていました時代だったので近くの饅頭屋も柏餅を本物の葉で包んでいた。柏餅に使う葉を持って行くと量に合わせて饅頭をくれるので、子ども同士で山へ行き葉を採ってきて一つ二つの饅頭を手に入れた。

前頁の下段からつづく



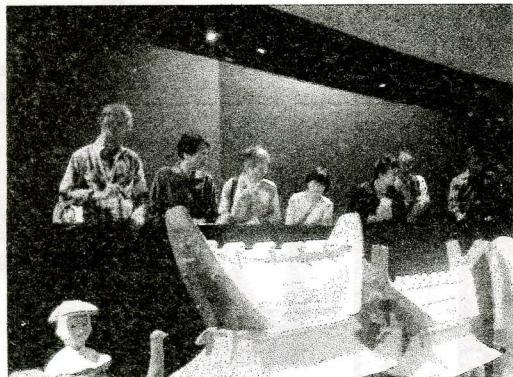
今城塚古墳の埴輪祭祀場。発掘された家・人物・馬・牛などの埴輪が整然と並んでいます。

高槻市立今城塚古代歴史館

史跡今城塚古墳・今城塚古代歴史館ふたつの施設を総称しての「いましろ大王の杜」を見学しました。オープンして6か月間に6万人が訪れたそうです。そんな訪問者に対応しておいで、ボランティアスタッフの方々に案内いただき、そのあと、お話を聞きました。

活動に向け只今研修中

埴輪を上から、後ろから観察できるのはここだけ、ということです。



歴史館の広いロビーで、まずボランティアさんのご挨拶。



二つの施設を見学後、ボランティアスタッフの方に迎えられ、成り立ち、組織、私たちが今後に活動するための助言など頂きました。多くの市民に文化財を親しんでもらおうとの熱意が言葉の端々からうかがわれました。

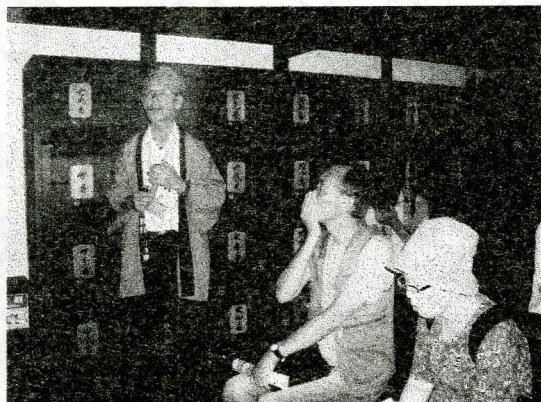
大阪市立東洋陶磁美術館 大阪市中之島

東洋陶磁美術館では、2グループに分かれ、それぞれボランティアガイドのお二人にじっくりと解説していただきました。奥行のある丁寧なガイドに、とても勉強をされている印象を受け、すっかりその世界に溶け込んでいました。

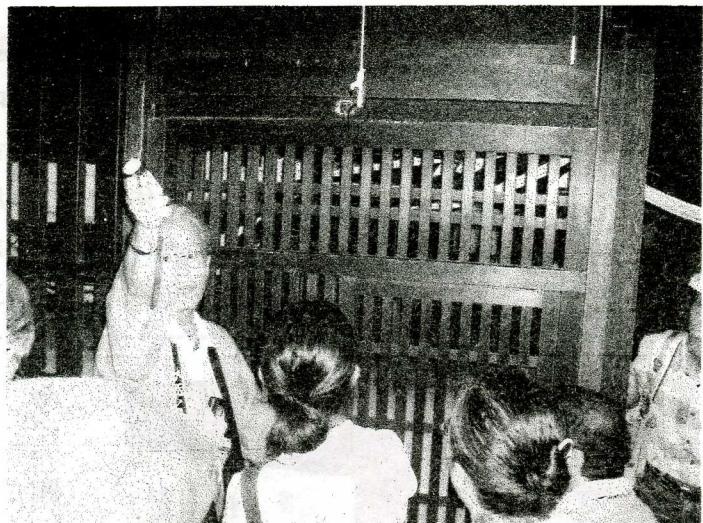
(9月16日)

**大阪市立住まいのミュージアム
大阪くらしの今昔館**
大阪市天神橋筋6丁目

(8月26日)



天保時代の風呂屋「天神湯」の脱衣箱の前で
当時の銭湯の様子をお聞きしました。



150年前の大阪にタイムスリップ。
江戸時代の町家の店先。引き上げ戸の構造、仕組み、そ
の時代をボランティアさんにお聞きしました。

**各施設のご案内・ご指導いただき
ありがとうございました
市民学芸員の感想**

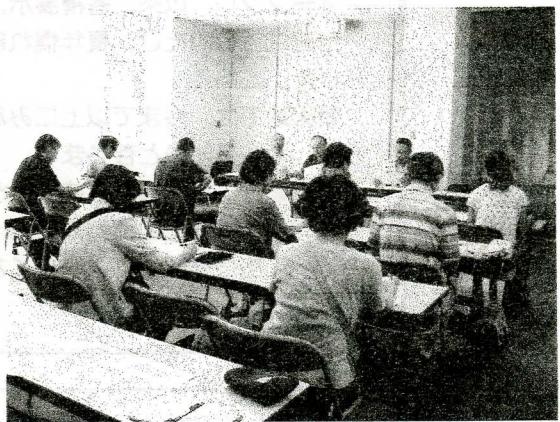
日本民家集落博物館
住まいのミュージアム大阪くらしの今昔館



展示物についての周辺知識が豊富
お客様のニーズに合わせて案内する、というのは素晴らしい。
案内の声が大きく、簡潔なのがよかったです。
知識に裏付けられ、自信と情熱、熱意が伝わってきました。
皆の顔を見ながら話し、よく通る声がよかったです。
知っていることを全部伝えようという思いが感じられた。
話が聞き取りやすかつた。
知識に裏付けられた自信を感じられた。
よく勉強されており、自分自身も楽しみながらの説明。
わかりやすく、懇切であった。
見物客にあわせて、説明の内容を変えるとのこと。
来館者に何か一つ、印象に残ることを頭に置いて説明されている。
ボランティア同士が競い合い、勉強している様子がうかがえた。
興味を引き出すように積極的に話しておられた。
話し方にメリハリをつけていた。

来年度の

堺市博物館 堀市大仙公園内



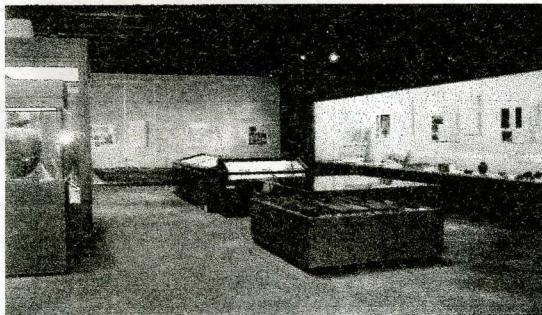
ボランティアスタッフのお二人に展示室をご
案内いただきました。その後、別室にて学芸員
の倉橋さんから、ボランティアの活動について、
その大きさを教わり、またボランティアのお二
方からもお話を聞く機会をいただきました。館
の方とボランティアさんが情熱で繋がっている
雰囲気が伝わってきました。

(9月16日)

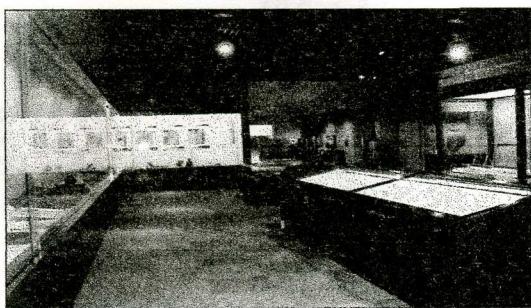
大東市立歴史民俗資料館は移転します。

歴史民俗資料館は、現在改修工事中の旧四条小学校跡地（歴史とスポーツふれあいセンター）に引っ越します。

只今その準備のため、休館しておりますが、新しい場所でみなさまとお会いできることを楽しみにしております。リニューアルオープンは、来春の予定ですので、ぜひお立ち寄りください。



館内・常設展の全景でした



今まで親しまれてきた大東市立歴史民俗資料館



昭和62年から24年間、市民の皆さんをお迎えし親しまれていた、大東市立総合文化センター内の大東市歴史民俗資料館の玄関

大東市立歴史民俗資料館は、昭和62年に大東市立総合文化センター（サーティホール）内にオープンし、以来、各種展示、講座や講演会など様々な行事を実施してきました。

当館は、このたび、長年慣れ親しんだ場所を離れ、旧四条小学校跡地に移転することとなりました。

新天地では、今まで以上にみなさんに気軽に立ち寄っていただけるような資料館を目指し、邁進していきたいと存じます。

引き続き、ご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、これまでの資料館であったスペースは、市民ギャラリーとしてオープンする予定ですので、こちらも併せてよろしくお願い申し上げます。

歴史民俗資料館スタッフ一同



大東市立歴史民俗資料館は、昭和62年に大東市立総合文化センター（サーティホール）内にオープンし、以来、各種展示、講座や講演会など様々な行事を実施してきました。当館は、このたび、長年慣れ親しんだ場所を離れ、旧四条小学校跡地に移転することとなりました。新天地では、今まで以上にみなさんに気軽に立ち寄っていただけるような資料館を目指し、邁進していきたいと存じます。引き続き、ご愛顧賜りますよう、お願い申し上げます。なお、これまでの資料館であったスペースは、市民ギャラリーとしてオープンする予定ですので、こちらも併せてよろしくお願い申し上げます。

「わたしが小学生だったころ」を特集して▼大人になつたら、本当の苦労が待ちかまえていたなど、考えもしなかつた子ども時代は、色々あっても、人生の樂園であるのかも知れないと思うこの頃です。水永八十生▼書き終えた後、津島神社の縁日で当時なかなか食べられなかつた苺入りアイスキャンデーを母親に買ってもらい、食べ終えた棒を捨てられず、何時までも舐めていたことーそんな話を今度、孫にしてみようかな。松井健一▼「小学生の頃なんて憶えてないわ!」という方がほとんどでしたが、実際はそうではなく、思い起こす機会がないだけやん、ということがわかりました。大西京子▼校外学習、遠足のシーズン。二人づつ手をつないで、プラットホームで電車を待つ小学生たち。それぞれにどんな未来が待つていてるのでしょうか。幸せにね。市民学芸員もみんな、新春の予定です。中西昭治